

# 大学図書館の学習支援機能—ラーニング・コモンズ—

東北大学附属図書館  
加藤 信哉

2010年8月23日

平成22年度 東北学院大学図書館  
研修会

1

## アウトライン

- 新しい大学図書館の課題
- 大学図書館計画の変化
- 名前が何だ—用語・概念の整理—
- ラーニング・コモンズはなぜ出現したか
- ラーニング・コモンズの構成要素
- インフォメーション・コモンズ、ラーニング・コモンズの現状
- 実現に向けての計画
- 新しい大学図書館員

2

## 新しい大学図書館の課題

- 挑戦の時代
  - 一層の効率化のみならず継続的イノベーションが必要
  - 漸進的調整ではなく、広範囲な組織的変革の実施
  - 環境の変化と利用者のニーズへの対応
- 将来の重点課題
  - 従来のサービスの継続
    - デジタル図書館開発、情報リテラシーのスキルの訓練、オンライン図書館サービス、**ラーニング・commons/図書館スペースの変革**、機関リポジトリ、研究データ管理、情報システム開発
  - 新しいサービス
    - 知識管理や仮想学習環境 (VLE) への取組

Envisioning future academic library services. Facet Publishing, 2010.

3

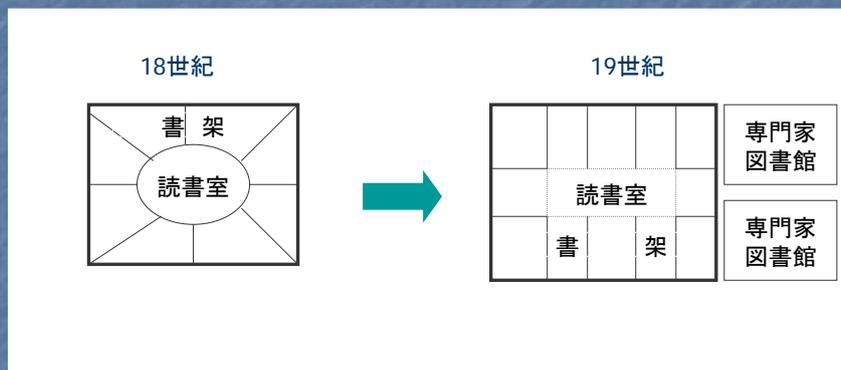
## 大学図書館の動向

- 学生数の増加
- 学生中心の学習の増大
- より長時間の開館
- 図書や雑誌の増加
- 図書館とコンピュータ・サービスの統合
- 研究への重点的取組み
- IT利用の増加
- 図書館における教室・セミナー室の提供
- セキュリティの増加

Libraries and Learning Resource Centres. 2nd ed. Architectural Press, 2009

4

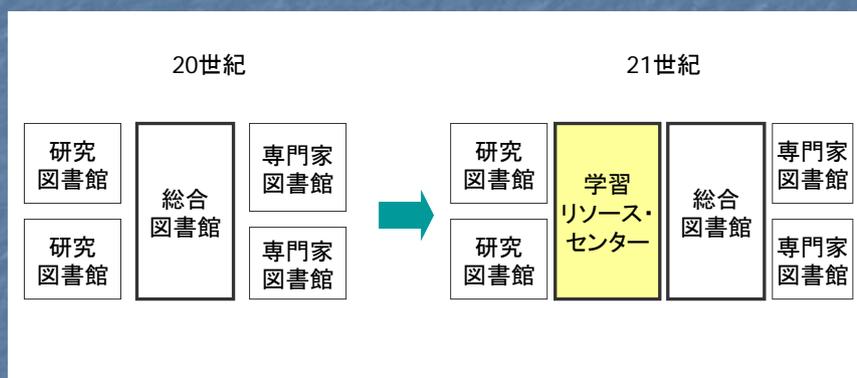
## 大学図書館計画の変化(1)



Libraries and Learning Resource Centres. 2nd ed. Architectural Press, 2009

5

## 大学図書館計画の変化(2)



Libraries and Learning Resource Centres. 2nd ed. Architectural Press, 2009

6

## 変化に対応するために

- 研究ベースの学習の増大
- 理論的追求よりも問題指向型研究の重視
- 多様なソースからの情報の利用、評価、統合
- 人々が協力することができる場所の提供
- 社会的にも学術的にも大学図書館を出会いの場として設計すること

Libraries and Learning Resource Centres. 2nd ed. Architectural Press, 2009

7

## 名前が何だ—用語・概念の整理—

- インフォメーション・コモンズとは
- ラーニング・コモンズとは
- 情報サービスではなく、利用者サービス
- インフォメーション・コモンズとの違い
- 用語について

8

## インフォメーション・コモンズとは

- 図書館の**情報サービス**の一つのモデル
- 電子情報資源、マルチメディア、印刷資源、各種のサービスを学生に提供
- **図書館中心**の観点で図書館が実施するもの
- 伝統的なサービスの利用と高度の技術的環境

Transforming library service through information commons, ALA, 2008.

9

## ラーニング・コモンズとは

- **インフォメーション・コモンズ**からの**移行**
- 利用者へ知識を「伝達」するというより、コモンズのスタッフと利用者によって、利用者の自立的な学習による知識の「創造」を目指すもの
- インフォメーション・コモンズのすべての側面を含むとともに**拡張し、増進**しているもの
- **機関全体のビジョンや使命**と明確に**整合**

Transforming library service through information commons, ALA, 2008.

10

## 情報サービスではなく利用者サービス

- 論文を執筆し、授業の課題の回答を作成している学生に
  - 情報のアクセスや組織化(図書館機能)
  - ソフトウェアや機器の利用(IT機能)
  - 論文の作成や企画のまとめ(ライティング・センター機能)をワンストップ・サービスで提供

Lippincott, Joan K. Linking the information commons to learning, 2006.

11

## インフォメーション・コモンズとの違い

- インフォメーション・コモンズは大学の使命を支援するが、ラーニング・コモンズはそれを成立させる
- 学生の学習—教室や実験室で実際に何が起きているかという質問に重点的に取組み、大学の使命に十分に対応できるスペース設計の共同活動に敢然と取り組むことにかかわる

Benett, Scott. The Information or the Learning commons. 2008.

12

## 用語について

- 多様な用語が使われている  
Information Commons、Learning Commons、Academic Commons、Faculty Commons、Research Commons  
何を重視(強調)するかで用語が異なる
- ラーニング・コモンズとインフォメーション・コモンズの厳密な使い分けがされていない

13

## ラーニング・コモンズはなぜ出現したか

- **ここ10年間の動き(インフォメーション・コモンズの出現から約20年)**
- 学部教育の新しいパラダイム  
知識の伝達 → 知識の創造
- 競争相手の登場  
アマゾン、グーグル、小売書店
- 利用者サービスの危機  
入館者、参考質問の減少
- 「場としての図書館」運動  
→ カフェの設置、開館時間の延長、無線LANの設置、魅力ある空間、飲食の方針の変更、個人の研究用に設計された静寂なスペースの発想の放棄
- ネット世代の登場



多様化するニーズに応える新しい学習スペース

Spencer, Mary Ellen. Evolving new model. 2006.

14

## インフォメーション・コモンズ発展年表(1)

- 1990 ・CNI (Coalition for Networked Information) 創設
- 1992 ・アイオワ大学(米国アイオワ州)が中央図書館にInformation Arcadeを建設
- 1994 ・南カリフォルニア大学(米国カリフォルニア州)がInformation Commonsを建設  
・ノースカロライナ大学チャペルヒル校(米国ノースカロライナ州)がElectronic Information Serviceを建設
- 1996 ・アイオワ大学(米国アイオワ州)が健康科学(ハーダン)図書館にInformation Commonsを建設
- 1997 ・リーハイ大学(米国ペンシルバニア州)がInformation Commonsを建設  
・ノースカロライナ大学チャペルヒル校(米国ノースカロライナ州)がElectronic Information Serviceエリアを拡張し、この包括的なエリアをInformation Commonsと新たに命名

A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

15

## インフォメーション・コモンズ発展年表(2)

- 1998 ・エモリー大学(米国ジョージア州)がInformation Commonsを建設  
・オレゴン州立大学(米国オレゴン州)がValley Library Information Commonsを建設
- 1999 ・バックネル大学(米国ペンシルバニア州)がInformation Commonsを建設  
・カルガリー大学(カナダアルバータ州)がInformation Commonsを建設  
・アイオワ大学(米国アイオワ州)が健康科学(ハーダン)図書館のInformation Commonsを拡張
- 2000 ・ケープタウン大学(南アフリカ)がKnowledge Commonsを建設
- 2001 ・フェリス州立大学(米国ミシガン州)がInformation Commonsを建設  
・カンサス州立大学(米国カンサス州)がK-State InfoCommonsを建設  
・セントマーチン大学(米国ワシントン州)がInformation Commonsを建設  
・ネバダ大学ラスベガス校(米国ラスベガス州)がLied Libraryを建設

A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

16

## インフォメーション・コモンズ発展年表(3)

- 2002 ・ジョージア工科大学(米国ジョージア州)がLibrary West Commonsを建設  
・テキサスクリスチャン大学(米国テキサス州)がInformation Commonsを建設  
・アリゾナ大学(米国アリゾナ州)がInformation Commonsを建設  
・シンシナティ大学(米国オハイオ州)がInfo Commons at Langsam Libraryを建設
- 2003 ・インディアナ大学ブルーミントン校(米国インディアナ州)がInformation Commonsを建設  
・ケント州立大学(米国オハイオ州)がInformation Commonsを建設  
・サイモンフレーザー大学(カナダ・ブリティッシュコロンビア州)がInformation Commonsを建設  
・オークランド大学(ニュージーランド・オークランド州)がKate Eager Information Commonsを建設  
・トリニティ大学(米国テキサス州)がInformation Commonsを建設  
・ニューカッスル大学(オーストラリア・ニューサウスウェールズ州)Auchmuty Information Commonsを建設

A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

17

## インフォメーション・コモンズ発展年表(4)

- 2004 ・ブリガムヤング大学(米国ユタ州)がInformation Commons/General Referenceを建設  
・ノースウェスタン大学(米国イリノイ州)がInformation Commonsを建設  
・オークランド大学(ニュージーランド・オークランド州)がGrafton Information Commonsを建設  
・ミネソタ大学ツインシティー校(米国ミネソタ州)がInformation Commonsを建設  
・ウオーターラー大学(カナダオンタリオ州)がRBC Information Commonsを建設
- 2005 ・カリフォルニア州立理工科大学(米国カリフォルニア州)がLearning Commons  
あるいはDigital Teachingを建設

A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

18

## ラーニング・コモنزの構成要素

- **多様な人的支援の提供**
  - レファレンス・サービス、図書館・情報リテラシー教育、IT技術支援、論文作成指導
- **施設・設備の提供(後掲)**
  - 広いテーブル、グループ作業スペース、コンピュータ・ネットワーク環境、ラウンジ・カフェ(併設)
- **資料・情報の提供**
  - 電子ジャーナル、データベース、その他の電子情報資源、レファレンス資料等印刷資料

19

## ラーニング・コモنزの施設・設備(1)

- コンピュータ・ワークステーション・クラスタ
- カウンター
- 共同学習スペース
- プレゼンテーション・サポート・センター
- FDのための教育テクノロジーセンター
- 電子教室
- ライティングセンターと他の大学サポート施設
- 会合・セミナー・レセプション・プログラムや文化イベントのためのスペース
- カフェとラウンジ・エリア

McMullen, Susan. US Academic Libraries. 2008.

20

## ラーニング・コモンズの施設・設備(2)



コンピュータ・ワークステーション



クローバー型ワークエリア

McMullen, Susan. US Academic Libraries. 2008.

21

## ラーニング・コモンズの施設・設備(3)



大規模グループ学習室



共同エリア

McMullen, Susan. US Academic Libraries. 2008.

22

## ラーニング・コモンズの施設・設備(4)



サイバー・カフェ



マルチメディア・プレゼンテーション・センター

McMullen, Susan. US Academic Libraries. 2008.

23

## ラーニング・コモンズの施設・設備(5)



学生教育テクノロジーラボ



円形の図書館教室

McMullen, Susan. US Academic Libraries. 2008.

24

## ラーニング・コモンズの構成要素(6)



大学相談・キャリアサービスカウンター



柔らかいすわり心地の座席

McMullen, Susan. US Academic Libraries. 2008.

25

## ラーニング・コモンズの学内パートナー

- 図書館(ふつう先導するパートナー)
- 情報技術(ふつう先導するパートナー)
- 学部学術コンピュータ・センター(研究用コンピューティング)
- ライティング・センター
- キャリアセンター
- 学生相談

A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

26

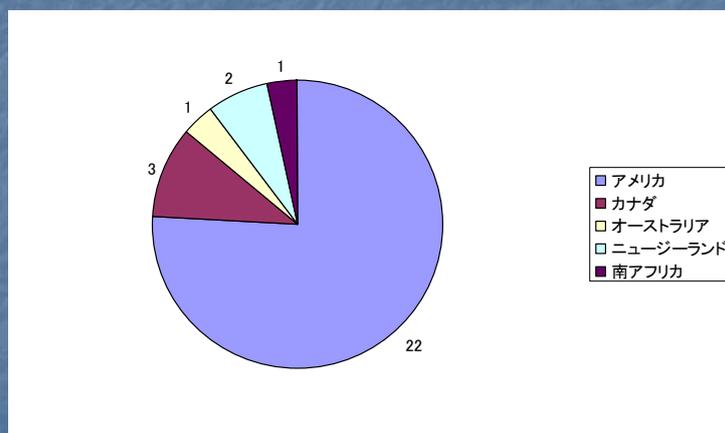
# インフォメーション・コモンズの現状 (1)

- 調査実施時期  
2006年夏
- 対象(別紙1)  
29機関(アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ)
- 分析項目  
9項目  
国別、学生数、カーネギー分類、設置年、面積、アクセス時間、サービス時間、PC台数、入場者数

A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

27

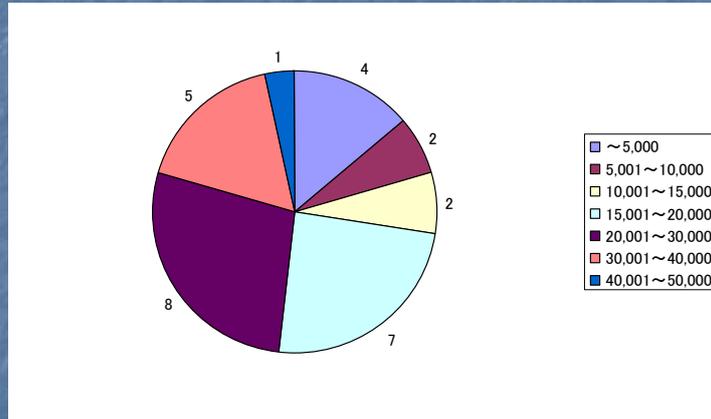
## 国別



A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

28

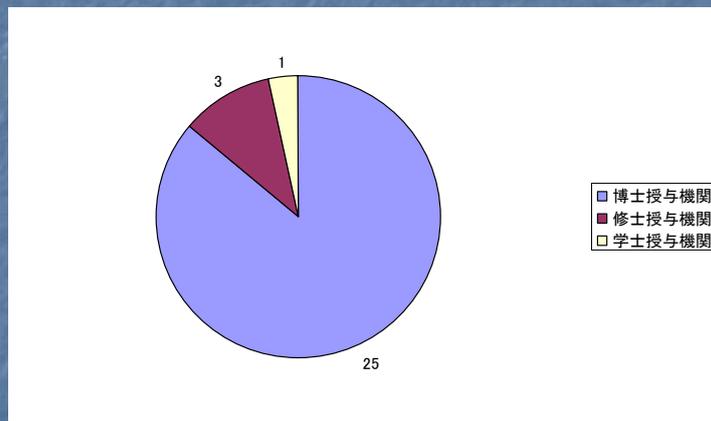
## 学生数(在籍者)



A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

29

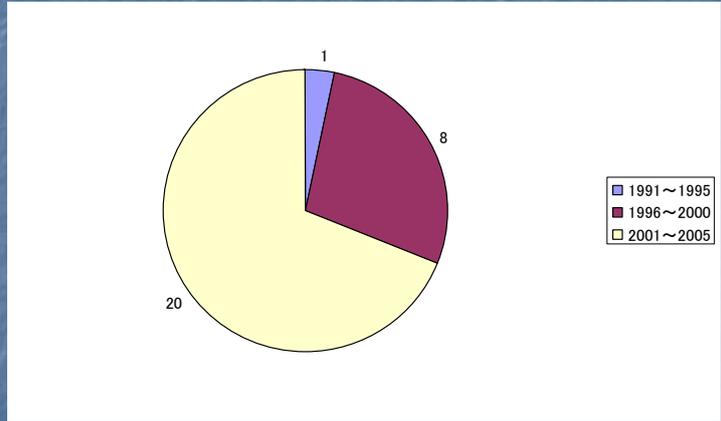
## カーネギー分類



A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

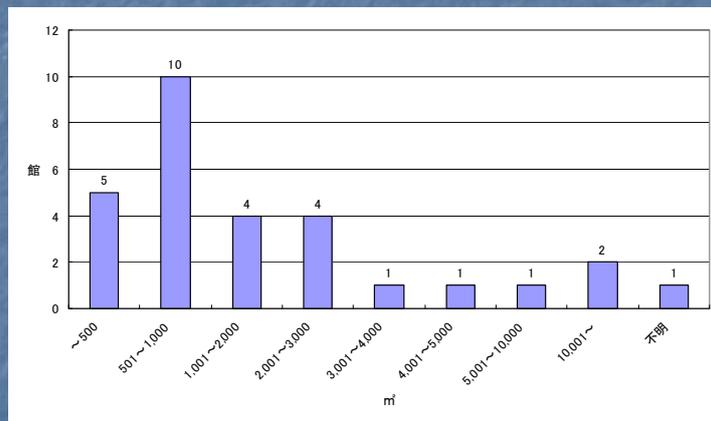
30

# 設置年



31

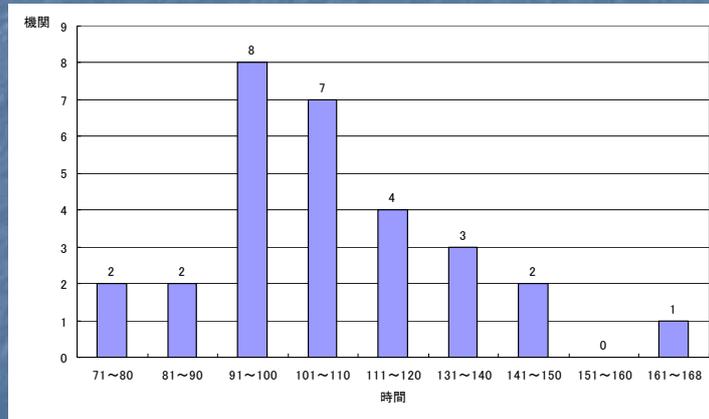
# 面積



A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

32

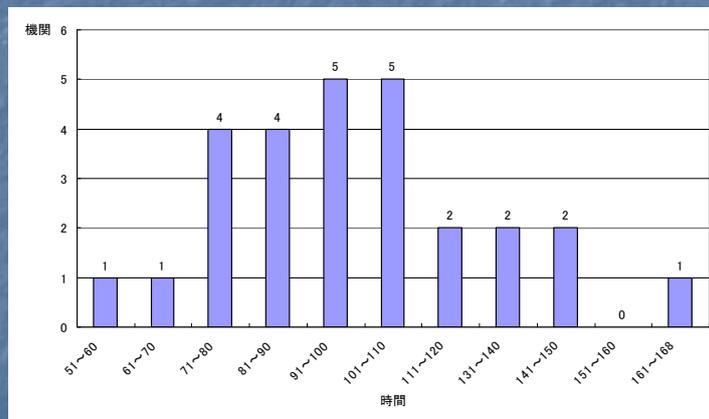
## アクセス時間



A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

33

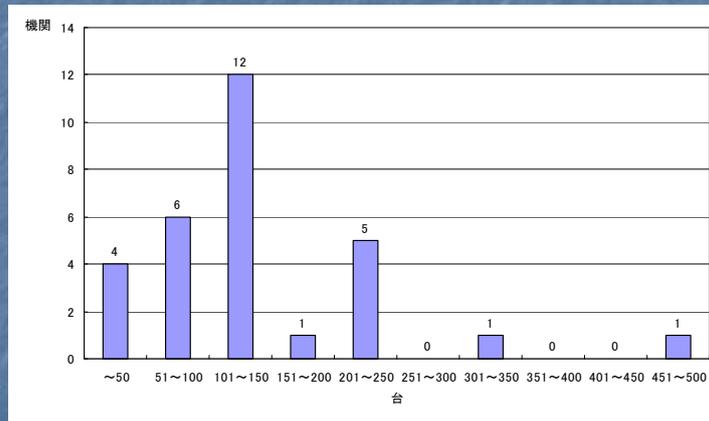
## サービス時間



A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

34

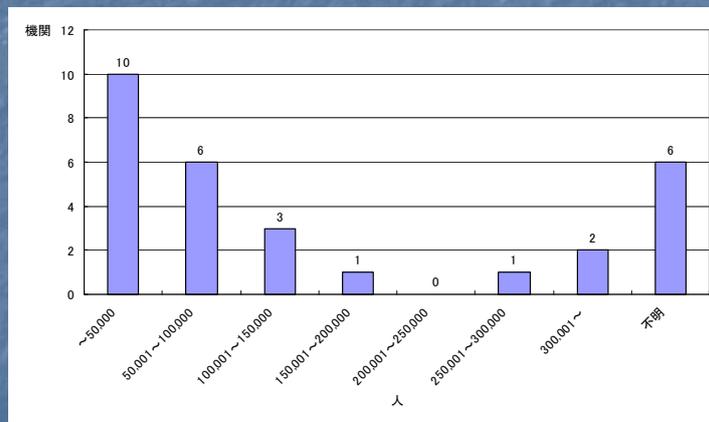
## PC台数



A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

35

## 入場者数



A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

36

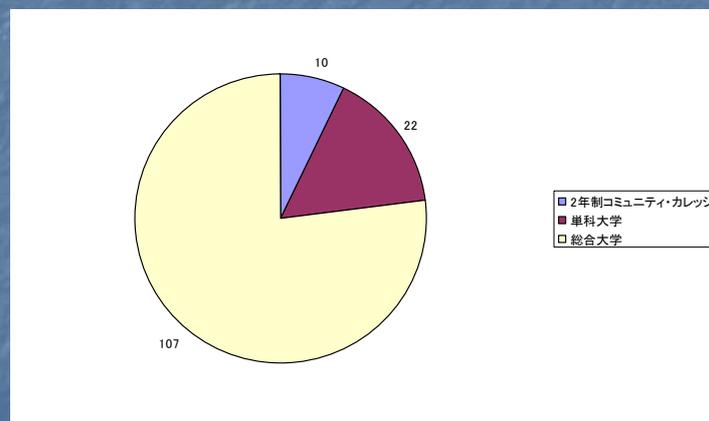
## ラーニング・コモنزの現状

- 調査実施時期  
2008年？
- 分析対象  
137機関
- 分析項目  
8項目  
提供サービス、デスクの名称、担当者の配置、必要とされる新しいスキル、レファレンスデスクへのインパクト、成功、課題、不安

The Desk and Beyond: Next Generation Reference Services. ACRL, 2008.

37

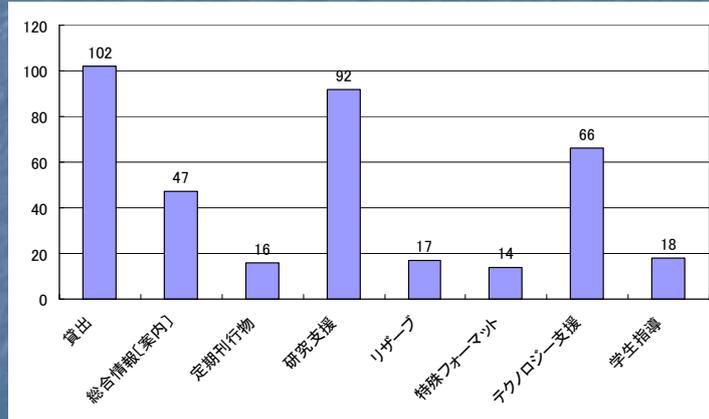
## 分析対象機関の内訳



38

# 提供サービス

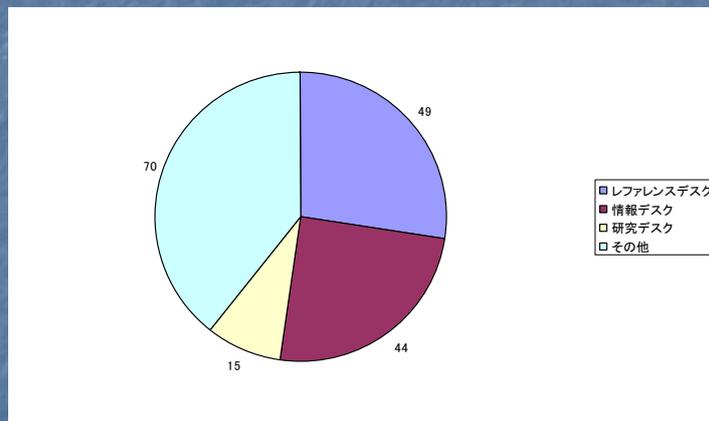
複数回答可



The Desk and Beyond: Next Generation Reference Services. ACRL, 2008.

39

# デスクの名称

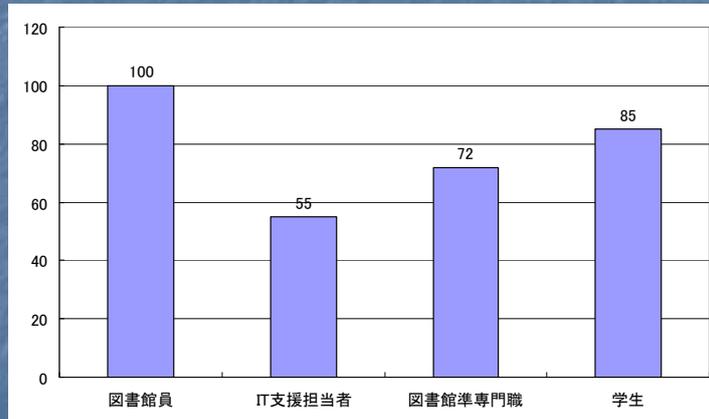


The Desk and Beyond: Next Generation Reference Services. ACRL, 2008.

40

## 担当者の配置

複数回答可

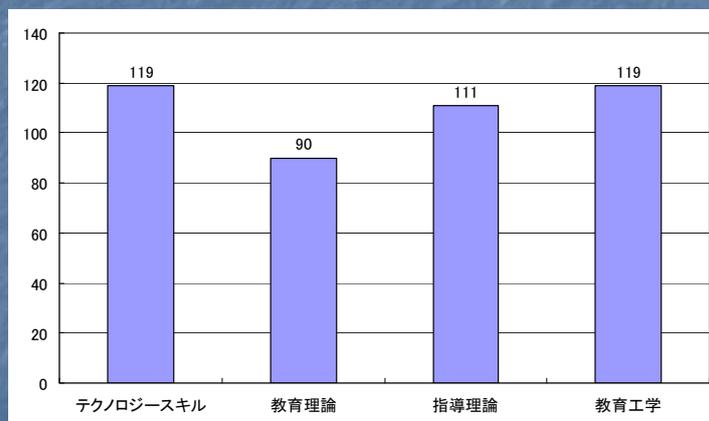


The Desk and Beyond: Next Generation Reference Services. ACRL, 2008.

41

## 必要とされる新しいスキル

複数回答可

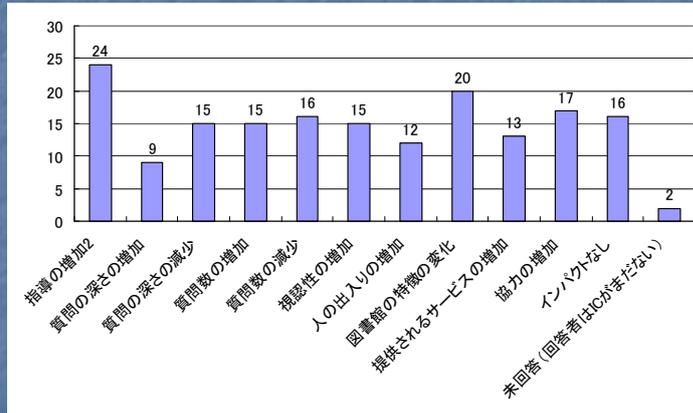


The Desk and Beyond: Next Generation Reference Services. ACRL, 2008.

42

# レファレンスデスクへのインパクト

複数回答可

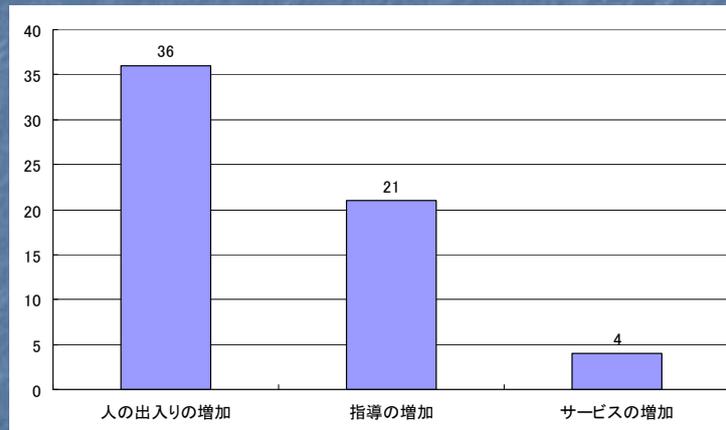


The Desk and Beyond: Next Generation Reference Services. ACRL, 2008.

43

# 成功

複数回答可

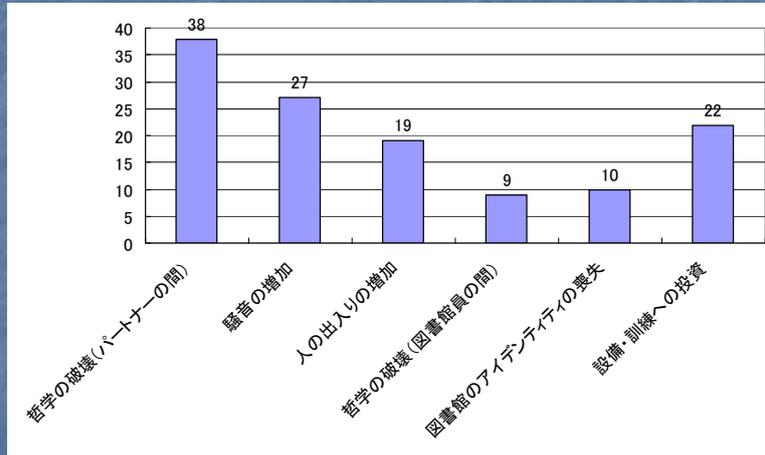


The Desk and Beyond: Next Generation Reference Services. ACRL, 2008.

44

# 課題

複数回答可

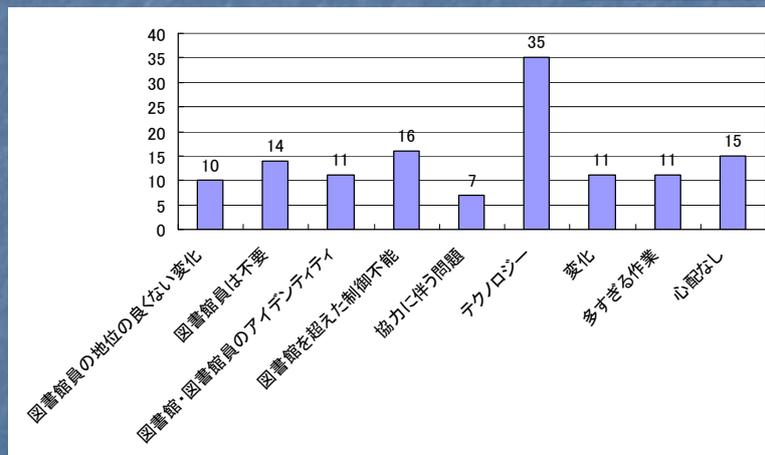


The Desk and Beyond: Next Generation Reference Services. ACRL, 2008.

45

# 不安

複数回答可



The Desk and Beyond: Next Generation Reference Services. ACRL, 2008.

46

## 実現に向けての計画

- 学習に関連したビジョンを設定する
- 要求アセスメントを実施する
- 目標を設定する
- アセスメント計画を設計する
- 適切なパートナーを決定する
- 資源を定義し、獲得する
- **場所を決定する**
- 利用者が行えることが何であればよいかを定義する
- 提供するサービスを定義する
- 担当者のニーズを決定する[そしてそれから...]
- フロアプランを作成する
- テクノロジー[ネットワーク, ハードウェア, ソフトウェア]を計画する
- 家具を選ぶ

Lippincott, Joan K. Linking the information commons to learning, 2006.

47

## 課題群

- **学習支援における図書館と情報処理関連施設との関係**
- 図書館資料の電子化, インターネット利用に対応して設置されたインフォメーション・コモンズに類した施設の評価
- **大学の方針を具体化するための大学図書館の学習支援サービス**
- レファレンス・サービスの今後の方向性—レファレンス・カウンターは必要か
- **サービス対象となる学生や学習方法の変化への対応**
- 図書館施設のリノベーションとラーニング・コモンズ
- ラーニング・コモンズの基盤となるICT機器の予算確保と維持
- ラーニング・コモンズに配置するスタッフの確保と育成
- **場としての図書館の役割の再確認**

48

## 新しい大学図書館員

- ブレンド型専門職
- イノベーションの主演

49

## ブレンド型専門職としての図書館員

- 図書館情報学専門職は、取り巻く環境の急激な変換によって非常に多くの課題に直面している。図書館員はあらゆる専門的なスキルと経験を活用し、それらを様々な事業モデルや戦略的挑戦や実践共同体に適合させることができる「ブレンド型専門職 (blended professional)」となる必要がある。

Envisioning future academic library services. Facet Publishing, 2010.

50

## 豊田高弘(前:静岡市立御幸町図書館)

- 図書館が情報や知識を提供するサービス機関であるからには、サービスに付加すべき新たな価値の創造をもっと重視すべきでしょう。
- 私が司書にもっとも期待したいのは、彼らが不断のイノベーションの主役となって激しく変動する外部環境に適応し、危機(例えば従来のサービスの陳腐化)を機会[チャンス]に変えることです。

図書館・博物館等への指定管理者制度導入に関する調査研究報告書, 2010.

51

## 参考文献

- ・ラーニング・コモンズ基本論文集 / 加藤信哉編訳 2010.3 (科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書;平成19~21年度・電子情報環境下において大学の教育研究を革新する大学図書館機能の研究)
- Forrest, Charles; Halbert, Martin. eds. A Field Guide to Information Commons. Scarecrow Press, 2009.

52

インフォメーション・コモンス一覧(1/2)

番号	1	2	3	4	5	6	7
機関	Brigham Young University. Harold B. Lee Library. Provo. Utah, USA	Bucknell University. Ellen Clarke Bertrand Library, Information Service and Resources (ISR) Lewisburg, Pennsylvania	California State Polytechnic University (Cal Poly) Robert E. Kennedy Library San Luis Obispo, California USA	Emory University. Robert W. Woodruff Library. Atlanta, Georgia, USA	Ferris State University. Ferris Library for Information, Technology, and Education (FLITE) Big Rapids, Michigan, USA	Georgia Institute of Technology. Georgia Tech Library. Atlanta, Georgia, USA	Indiana University. Herman B. Wells Library. Bloomington, Indiana, USA
学生数(学部生、大学院生、研究生を含む)	30,000人	3,650人	18,000人	11,000人	11,803人	16,600人	39,000人
学部学生		3,500人	17,000人				31,000人
大学院生		150人	1,000人				8,000人
カーネギー分類	博士授与機関	学士授与機関	修士号授与機関	博士授与機関	修士授与機関	博士授与機関	博士授与機関
設置年	2004	1999	2005	1998	2001	2002	2003(1階) 2005(2階)
名称	Information Commons/General Reference	Information Services and Resources (ISR)	The Learning Commons or the Digital Teaching Library (DTL)	Information Commons(正式名称) InfoCommons(通称)	Information Commons	Library West Commons (LWC)	Information Commons(正式名称) IC(通称)
面積(IC)	1,115㎡	算出不可能	Phase 1: 505.9㎡ Phase 2: 3,252㎡(計画中)	1,394㎡	897.4㎡	882.6㎡	1階: 2508㎡ 2階: 743.2㎡
総面積(建物)	61,780㎡	9,659㎡	18,580㎡	27,870㎡	16,120㎡	21,370㎡	55,740㎡
場所	中央図書館の3階(メインフロア)	Bertrand Libraryのメインフロア	中央図書館 2階の北西部分	中央図書館 入口のフロア、その他のフロア	中央図書館 入口のフロア及び2階	1階西	西タワーの1階及び2階
アクセス時間/週	101時間	100+時間	100時間	140時間	97時間	135時間	1階: 168時間 2階: 117時間
サービス時間/週	101時間	100+時間	100時間	80時間	97時間	135時間	1階: 168時間 2階: 117時間
サービス・ポイント	3箇所	3箇所	2箇所	3箇所	4箇所	3箇所	3箇所
コンピュータ台数	104台	64台	77台	240台	140台	106台	335台
入場者数/月	不明	248,343(Fall 2004)、 230,257(Spring 2005)	不明	110,000人	37,463人(2005年度)	74,000人	150,000人
サービス件数/月	7,500件	3,149件/年	不明	2,400人	335件	1,836件	不明
ワークステーション・セッション数	50,770	不明	不明	ログイン数 54,573件/月	不明	不明 年間平均使用時間 3,200時間/台	83,000件

番号	8	9	10	11	12	13	14
機関	Kansas State University. Hale Library, Manhattan, Kansas, USA	Kent State University. Main Library. Kent, Ohio, USA	Lehigh University. E.W. Fairchild-Martindale Library. Bethlehem, Pennsylvania, USA	Northwestern University. Northwestern University Library. Evanston, Illinois, USA	Oregon State University. Valley Library. Corvallis, Oregon, USA	Simon Fraser University. W.A.C. Bennett Library. Burnaby, British Columbia, Canada	St. Martin's University. O'Grady Library. Lacey, Washington, USA
学生数(学部生、大学院生、研究生を含む)	23,151人	24,000人	5,823人(2005年春)	15,659人	19,162人(2004-2005)	19,345人	1,126人
学部学生							
大学院生							
カーネギー分類	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	修士授与機関
設置年	2001	2003	1997秋	2004	1998	2003	2001
名称	K-State InfoCommons	Information Commons(正式名称) InfoCommons(通称)	Information Commons (IC)	Information Commons (IC)	The Valley Library Information Commons (IC)	Alumni Information Commons (ICまたはInfo Commons)	Information Commons
面積(IC)	37,160㎡	2,497㎡	836.1㎡	473.8㎡	2,089㎡	1,394㎡	334.5㎡
総面積(建物)	37,160㎡	22,510㎡	12,270㎡	34,190㎡	31,130㎡	26,010㎡	3,995㎡(3階建て)
場所	中央図書館全体	中央図書館 入口のフロア、2階、他の学内組織と共有スペース1箇所	メインフロア(図書館玄関から見える)	中央図書館 1階(玄関)	中央図書館 メインフロア(2階)	中央図書館 メインフロア	中央図書館 メインフロア
アクセス時間/週	108時間	99時間	118時間	115時間	111.5時間	100時間	85時間
サービス時間/週	83時間	77時間	90時間	105時間	111.5時間	70時間	85時間
サービス・ポイント	11箇所	4箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所
コンピュータ台数	213台	130台	26台	58台	110台	179台	32台
入場者数/月	94,846人	不明	77,279人(2004-2005)	56,000人	96,037人(図書館全体)	200,000人(ピーク時)	30,085人(2004年秋)
サービス件数/月	7,750件	参考: 3,589件 学生マルチメディア・スタジオ: 803件	1,238件(2004-2005)	1,423件	3,374件	4,000件(ピーク時)	890件
ワークステーション・セッション数	27,146件	不明	7,967件	80,040件/月	ログイン数 45,000件/月	不明	不明

出典: A Field Guide to the Information Commons. Scarecrow Press, 2009. p.67-178.

インフォメーション・コモンズ一覧(2/2)

番号	15	16	17	18	19	20	21
機関	Texas Christian University. Mary Couts Burnett Library. Fort Worth, Texas, USA	Trinity University. Elizabeth Huth Goates Library, San Antonio, Texas, USA	University of Arizona. Main Library. Tuscan, Arizona, USA	University of Auckland. Grafton Medical and Health Sciences Campus. Faculty of Medical and Health Sciences Building. Auckland, New Zealand	University of Auckland. Kate Edger Information Commons. City Campus, Auckland, New Zealand	University of Calgary. Mackmmie Library. Calgary, Alberta, Canada	University of Cape Town. Chancellor Oppenheimer Library. Cape Town, South Afrca
学生数(学部生、大学院生、研究生を含む)	8,600人	2,718人	36,932人	2,766人	31,223人	35,500人	21,300人
学部学生							
大学院生							
カーネギー分類	博士授与機関	修士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関
設置年	2002	2003	2002	2004	2003	1999	2000
名称	Informations Commons (IC)	Information Commons (InfoCommons)	Information Commons(正式名称) ICまたはILC(非公式名称)	The Grafton Information Commons (Grafton IC)	The Kate Edger Information Commons	Information commons、Info CommonsまたはCommons	The Knowledge Commons (公式名称) KC(通称)
面積(IC)	1,194m <sup>2</sup>	190.5m <sup>2</sup>	2,694m <sup>2</sup>	490m <sup>2</sup>	6,847m <sup>2</sup>	3,906m <sup>2</sup>	849.1m <sup>2</sup>
総面積(建物)	13,420m <sup>2</sup>	15,260m <sup>2</sup>	中央図書館: 23,450m <sup>2</sup> 統合学習センター: 5,036m <sup>2</sup>		11,440m <sup>2</sup>	27,000m <sup>2</sup>	12,680m <sup>2</sup>
場所	中央図書館 全サービスを一つのフロアで提供	中央図書館 入口のフロア	中央図書館 地下1階	他の学内組織と共有している建物の一つのフロア	総合図書館と近接	中央図書館 2階	中央図書館 図書館玄関 北翼の一つのフロアを占有
アクセス時間/週	109時間	96時間	142時間	81.5時間	113時間	148時間	74時間
サービス時間/週	109時間	96時間	142時間	81.5時間	113時間	148時間	74時間
サービス・ポイント	3箇所	1箇所	1箇所	1箇所	2箇所	3箇所	1箇所
コンピュータ台数	144台	95台	250台	106台	498台	230台	105台
入場者数/月	不明	34,000人	不明	20,240人	315,720人	14,608人/日	48,000人
サービス件数/月	3,324件	1,800件	4,018件	600件	4,000件	85,000件(2004-2005)	7,200件
ワークステーション・セッション数	不明	不明	不明	28,496件	185,491件	不明	35,000件/月

番号	22	23	24	25	26	27	28	29
機関	University of Cincinnati. Langsam Library. Cincinnati, Ohio, USA	The University of Iowa. Hardin Library for the Health Sciences. Iowa City, Iowa, USA	University of Iowa. Information Arcade. Iowa City, Iowa, USA	University of Minnesota-Twin Cities. Wilson Library. Minneapolis, Minnesota, USA	University of Nevada-Las Vegas. Lied Library. Las Vegas, Nevada, USA	University of Newcastle. Auchmuty Library. Newcastle, New South Wales, Australia	University of North Carolina at Chapel Hill. Walter Royal Davis Library. Chapel Hill, North Carolina, USA	University of Waterloo. William G. Davis Centre Library. Waterloo, Ontario, Canada
学生数(学部生、大学院生、研究生を含む)	33,085人	28,000人	28,000人	45,413人	20,076人	25,000人	23,913人	22,800人
学部学生								
大学院生								
カーネギー分類	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関	博士授与機関
設置年	2002	1996 1999年に2倍に拡張	1992	2004	2001	2003	1994	2004
名称	Info Coomons at Lnagsam Library (Info Commons)	Information Commons (Commons)	Information Arcade(公式名称) Arcade(通称)	Information Commons	Lied Library	Auchmuty Information Commons(正式名称) AIC またはInfocommon(通称)	Information Commons(正式名称) Info Commons (通称)	RBC Information Commons; InfoCommons
面積(IC)	4,352m <sup>2</sup>	929m <sup>2</sup>	529.5m <sup>2</sup>	775m <sup>2</sup>	27,870m <sup>2</sup>	615m <sup>2</sup>	529.9m <sup>2</sup>	105.2m <sup>2</sup>
総面積(建物)	19,190m <sup>2</sup>	不明	39,480m <sup>2</sup>	23,040m <sup>2</sup>	27,870m <sup>2</sup>	11,210m <sup>2</sup>	39,270m <sup>2</sup>	4,467m <sup>2</sup>
場所	中央図書館	Hardin Libraryの2階をほぼ占有 入口は3階と1階	中央図書館 建物の玄関に近い1階の北西のコーナー	Wilson Library	中央図書館	中央図書館 2階	中央図書館 入口のフロア	一つのスペースを他の学内組織と共有
アクセス時間/週	101時間	96時間	71.5時間	100時間	100時間	136時間	103時間	106時間
サービス時間/週	101時間	96時間	71.5時間	87時間	100時間	136時間	84時間	56時間
サービス・ポイント	4箇所	2箇所	1箇所	1箇所	2箇所	1箇所	1箇所	1箇所
コンピュータ台数	76台	104台	56台	35台	220台	136台	118台	39台
入場者数/月	70,785人	不明	5,200人	8,000人	121,000人	34,596人	89,700人	85,017人
サービス件数/月	2,293件	不明	2,400人	750件	3,800件(コンピュータ・ヘルプデスク)	3,400件	3,652件	不明
ワークステーション・セッション数	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明

出典: A Field Guide to the Information Commons. Scarecrow Press, 2009. p.67-178.